



# 新毎日新聞

3月17日(火)

2026年(令和8年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋1-1-1  
〒100-8051 電話(03)3212-0321  
毎日新聞東京本社

UACJ地球塾



Aluminum lightens the world  
アルミでかなえる、軽やかな世界

# 紛争なくし、地球のために協力を



## 理想の地球のために行動する 生徒たちのMOTTAI NAI宣言

環境問題と理想の地球について考える「#地球塾2050 Xユースミーティング」が2026年1月10日、千葉県柏市の芝浦工業大学柏中学校で開催された。参加した生徒たちは世界の現状や資源に関する話を聞いて、理想の2050年の地球の姿や、そのために今自分ができることについて考え、それぞれの言葉でまとめた。



2050年には自然の豊かさを感じられて平和である地球の姿でありたいと思いました。今は人々によって環境が壊されていき、街ではあまり自然を感じられなくなってしまっているため、2050年では街に緑が増え、多くの自然や生き物を感じられるよう

な地球であってほしいと思ったからです。今の状態では人間の活動により、多くの動物の多様性や食物連鎖が壊されてしまったり、資源や土地、水、食料などで争いが起こっていたりする国もあり、生き物たちが生活をするには安心できないと思います。だから、そのような姿にするために、一人でも多くの人がそのようなことについて知る必要があると思いました。

「清川 美緒」

地球塾の中で私が特に印象に残ったのが海水温の上昇で以前その場所にいた魚がいなくなってしまうという話



だ。これは温室効果ガスが地球に閉じ込められた余剰熱が海水が吸収しているからであるらしい。温室効果ガスの増加は発電が一つの原因であるからだ。これは人間が無責任に電気を使いすぎた結果だと言えよう。「便利さ」が必ずしも悪いというわけではないと思う。だが、私は未来のことをあまり考えずに行動してしまっている今の社会には少し不安を感じる。だから私はなにか行動を起こす前には、一度立ち止まってその行動について考えてみるということを自分の中で約束したいと思った。私はまずエアコンの温度調節について考えてみようと思った。

「高田 佳太郎」

私は、今回の地球塾2050 Xユースミーティングを通

して、2050年の地球は「現在の環境を維持していく」だけではなく、「自分たちが選択してつくっていく未来」だと強く感じました。環境問題は規模が大きく、自分一人の力では変えられないと思っていましたが、毎日の小さな行動の積み重ねがみんなで行動をすれば大きな変化につながることを学びました。特に、「MOTTAI NAI」という考え方は、物だけでなく資源や時間、命にも当てはまる言葉だと思いました。わたしは、これから、自分の行動に責任を持って、環境に優しい選択や行動をしていこうと思いました。

「多田 喜一」

僕は国連広報センター、UACJの話聞いて人の便利な生活を維持しつつ環境を守り、後世に繋いでゆくための最前線にいるということを知り、このひとのような一部の人が考えるのではなく、僕達一般人や世界のすべての人たちが協力して考え、そして行動していかなければ解決しないとても重要な問題であると思った。しかし、全世界の人たちに協力してもらうことは簡単ではありません。そこ

で大切なのがプロト、私たちが一般人が協力するということです。たとえば、リサイクル技術を開発しても、正しく分別してゴミを出さなければ、意味がなくなってしまいます。私たちが日々の暮らしの中で意識しなければいけません。2050年の地球で生きていくためには小さなことを繰り返していくことが大切だと思いました。

「牧田 遥人」

気候変動などにより、人々が安心して暮らせなくなり土地や水を巡る争い(紛争)が起こったり、食糧不安になったりすると言われていることに改めて驚きました。私は普段から父の影響で食品ロスをしないように毎日残さず食べたり、リサイクルを心がけたりしています。でも、2050年に安心して生活ができるようにするにはまだ程遠いと思います。個人的に2050年までに紛争がなくなるとはほしいと思います。紛争がなくなればすべての人々が地球のために協力してくれられると思います。そのためにも一人一人が意見を尊重すれば紛争がなくなるのではと思います。まずは、自分と周りの人が自分の意見を尊重できるというのではと思います。そのために話し合いなどで、自分の意見を主張できればと思います。

「岨 あおば」